

第1章

現在の観光環境の変化を踏まえて、土佐清水市の観光資源の概要および観光に係る動向等を整理し、本市観光の課題を明らかにします。

1-1 観光環境の現状

昨今、地域の観光は地域住民が主体となって観光資源を発掘したり、プログラム化したりして市場に情報発信し集客を行うといった取組が盛んになりつつあります。このような地域仕立ての観光は「着地型観光」と呼ばれています。高知県においても、2005（平成17）年に「高知県観光ビジョン」が策定され、高知県を訪れる人々と地域の人々との心が触れあう交流を拡大するとともに、観光を地域の産業として発展させていくために、これまで以上に地域の人々がわがまち・わがむらの魅力を見つめ直し、自信と誇りの持てる個性豊かな観光地づくりを進めていくことが謳われています。一方、来訪者は個人や小グループによる深い観光へとニーズが変化するとともに、海外、特にアジア圏からの観光客が増えています。この背景には、以下のような社会経済的な要因および需要の変化が挙げられます。

① 消費者の観光ニーズの成熟化

消費者の観光に対するニーズが成熟し、「本物」に対する志向が高まるとともに、地域の生活や文化を学び、体験や交流をじっくりと楽しむといった傾向が強くなっています。観光客は、名所旧跡や風光明媚な景色だけを見て、土産物を買うといったスタイルの観光にはもはや満足せず、顧客ニーズに応じたあらゆる体験や学び、交流のメニューを用意しなければ観光地として成立しなくなってきました。

② 情報化社会の進展

急速なインターネットの進歩および普及によって、観光地から顧客にダイレクトに情報が伝わるようになりました。インターネットは旅行商品の販売にも大きな影響をもたらし、従来の雑誌やテレビなどのメディアや、パンフレットやチラシといった販売ツールに比べ、情報量、即時性、操作性、情報更新の簡易性などで格段に優位に立っています。

③ 交通手段の多様化

マイカーの普及および高速道路網の拡充、新幹線の時間短縮、航空運賃の自由化による低廉化など、観光に欠かすことのできない移動の利便性が格段に向上してきました。そのため、団体旅行運賃のメリットが減少し、旅行者は発地からの移動を含む旅行商品を利用する必要性がほぼなくなったといえます。

④ 外国人観光客の増加

外国人観光客が著しく増加し、地域のきめ細かい対応が求められるようになってきました。外国人観光客の日本観光への動機づけは、一部ショッピングを目的とするものも認められますが、欧米や、近年では台湾からの観光客も日本人のライフスタイルや生活文化への関心が高いといわれています。したがって、日本文化が多く残る地方のコミュニティにおいては、今後外国人観光客への細かい対応が求められるようになってきます。

⑤ 地域の食文化への関心の高まり

旅行形態がこれまでの団体旅行型から家族や友人同士など、少人数化・個人化することに伴い、価値観やライフスタイルの多様化が進んできました。このことによって観光の醍醐味である「食」についてもこだわりを見せる観光客が増えており、地域固有の食材や調理法を楽しみたいという需要が高まっています。

このような社会経済的な要因および需要の変化を踏まえながら、次項以降、本市観光に係る現状と課題を整理していきます。

1-2 土佐清水市の観光資源

本市は、四国西南部の勇壮な海岸景観と、黒潮の影響を受けた温暖多雨な気候に育まれた照葉樹林や造礁サンゴが成育する海中景観が特徴的な地域です。主要な観光地としては「足摺地区」と「竜串地区」があり、それぞれにおいて自然・歴史文化的価値の高い資源が存在します。

ここでは、本市の全体像を示したうえで、両地区の資源の概要を整理します。

土佐清水市の観光資源マップ① 市域



● 大岐の浜

真っ白な砂浜と緑林が 1.6km にわたって緩やかな曲線を描く美しい海岸。その白砂は、遠く足摺岬の花崗岩が侵食・運搬されたものです。足摺宇和海国立公園の東玄関たる序景にふさわしく、昔から絶好のキャンプ地です。最近ではサーフポイントとしての人気も高く、県内外から多くのサーファーが訪れます。絶滅危惧種のアカウミガメが上陸し、産卵に利用する砂浜でもあります。



● 唐人駄場遺跡・巨石群

唐人駄場園地のすぐそばに、唐人石と呼ばれる巨石群があります。石のかたちは様々。凹面がある石などがあり、人の手が加わっているであろうと想像されますが、ギザのピラミットと同様に、巨石の移動方法や研削の技術は謎に包まれています。



● 叶崎

国道 321 号を竜串から大月町へ向かう途中に、切り立った断崖の上に白亜の灯台が見えます。建設されたのは 1911（明治 44）年。光源は様々な改修を受けましたが、外観は当初の姿を留め、今なお現役の貴重な灯台です。「叶崎海岸を見ずして土佐風景を見たとはいえない」と俳人碧梧桐が表した西の足摺岬といわれる叶崎海岸には切り立った断崖が連なり、見事な海食洞窟、岩礁を青い太平洋にちりばめています。



▲ 中浜万次郎生家（復元）

土佐清水市中浜は、ジョン万次郎が 14 歳まで暮らした場所。木造平屋、茅葺屋根の生家は、現存する生家の写真をもとに、市内の有志の働きによって集められた募金などで復元されました。



▲ ジョン万次郎資料館・万次郎少年群像

2006（平成 18）年 4 月に足摺岬地区より、養老地区の海の駅あしずり港内に移転オープンしました。資料館はジョン万次郎の生涯を再現した国際交流の館となっており、模型やパネルで万次郎の生涯がわかりやすく展示されています。また、あしずり港広場には万次郎少年群像が 1996（平成 8）年 2 月に設置されています。



■ マンボウスイム・ジンベエスイム

「マンボウスイム」は、以布利港内のいけす（広さ 10m×10m・深さ 5m）で飼育されているマンボウとシュノーケリングと一緒に泳げる場所です。マンボウはとてもマイペースで、人がいけすに入ってきてても知らん顔したり、餌をもらえんと思って近づいてきたりします。



■ ホエールウォッチング&イルカウォッチング

足摺岬周辺の海域では、ニタリクジラなどを通年で見るができます。山の豊かな栄養を含んだ水が四万十川などを通じて土佐湾に流れ込み、小魚が豊富になるこの海域にクジラが棲みついているといわれます。また、下ノ加江地区および窪津地区においてもそれぞれホエールウォッチングを行っています。クジラがよく見られる時期は 4 月～10 月です。



▲ 足摺黒潮市場

漁港を一望できるレストランでは、土佐清水市自慢の清水さばを使った料理をはじめ、新鮮な漁師料理を楽しめます。港で獲れたばかりの鮮魚や土佐清水市の土産物も販売されています。



▲ 道の駅めじかの里

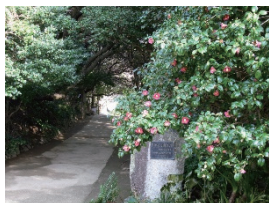
四国の最南端にある道の駅「めじかの里」。土佐清水市でとれた新鮮な魚や野菜が販売されています。お隣の工場で生産される土佐清水市の特産品「姫かつお」など、加工品も多数揃っています。

土佐清水市の観光資源マップ② 足摺地区



●足摺岬展望台

足摺岬自然遊歩道の突き当たりにある展望台です。展望台では 270°の視界が広がり太平洋や周囲の岩壁を一望でき、真っ青な海を背景に白垂の灯台が浮かび上がった姿を見ることができます。



●足摺岬園地（足摺椿まつり）

延長 2km にも及ぶ自然遊歩道（樫のトンネル）は、樫が覆い茂り、まるで樫のトンネルをくぐっているかのようです。木漏れ日や優しい風を感じながら、ゆったりとした時間を感じることができます。



●足摺岬・足摺岬灯台

四国最南端の岬です。その西の臼箸は、黒潮本流が直接ぶつかる全国でも唯一の場所。この岬に建つ白亜の灯台は高さ 18m で光度 46 万カンデラ、光達距離は 38km に及び、我が国でも最大級の灯台の一つです。1914（大正 3）年に点灯されて以来、海の安全を見守り続けています。



●足摺七不思議

足摺岬には、弘法大師が嵯峨天皇の命により建立した四国八十八カ所第 38 番札所「金剛福寺」があり、それにまつわる数々の「不思議」が遊歩道沿いに点在しています。それを総じて「足摺七不思議」と呼ばれています。

※七不思議とは、不思議が七つあるという意味ではなく、多くの不思議があるという意味です。



●足摺亞熱帶自然植物園

年間を通じて温暖な気候の足摺は、珍しい植物の宝庫です。1974（昭和49）年7月に開園した足摺亜熱帯自然植物園は、国有林内の約1万m²もの敷地を開放した植物園です。亜熱帯・温暖帯の花木やピロー、ヤシ、シダ類がジャングルのように生い茂っており、遊歩道や休憩所なども整備されています。



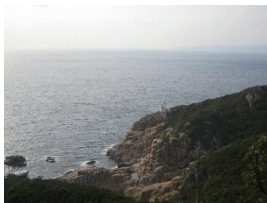
● 白山洞門

足摺岬は海食による洞窟、洞門に恵まれています。白山洞門は高さ 16m、幅 17m 最も大きいものです。花崗岩海食洞門では日本一の規模といわれ、今なお基底を波に洗われています。海岸に続く遊歩道もあって容易に近づける場所なので、研究にも観光にも恵まれた洞門です。高知県の天然記念物に指定されています。



● 鵜の岬展望台

足摺岬から西へ約 5 km、日本本土で最初に黒潮が接岸することで知られる臼渚にある三つの展望台の一つです。付近の海面では、渦を巻きながら移動する潮目が見られます。絶え間なく打ち寄せる荒波がつくり出す崖や洞窟の変化にとんだ地形、濃紺の海に映える花崗岩の岩場など、海と陸の雄大な景色を体感することができます。



● 臼渚

花崗岩の大絶壁の真下にぽっかり浮かんでいる海上 2m、幅 3m の岩が臼のかたちに似ており、そこを中心として黒潮が渦巻くかたが臼に似ていることから「ウスバエ」と名付けられました。日本列島で黒潮が最初に接岸する場所で、黒潮の流れを見られる海岸はここだけと言われています。磯釣りのメッカとしても全国に知られ、映画「釣りバカ日誌」の撮影現場にも使われました。



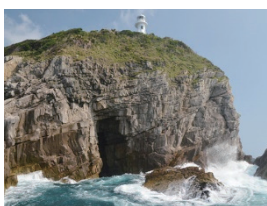
▲ 金剛福寺（四国霊場第 38 番札所）

四国霊場八十八カ所巡りの第 38 番札所 金剛福寺は、修行の道場といわれる高知県の中でも、札所間の距離が最も長い場所にあります。822（弘仁 13）年、嵯峨天皇の勅願によって、弘法大師が三面千手観音を本尊として 823（弘仁 14）年にできたものです。歴代天皇の勅願所で皇室や藩主の尊崇あつく、境内には多宝塔、十三石塔、逆修の塔など多くの文化財が伝えられています。



▲ ジョン万次郎銅像

中の浜地区で漁師の子として生まれた“ジョン万次郎”こと中浜万次郎。その銅像が足摺岬の先端に立っています。万次郎は、150 余年前、日本人として初めてアメリカに渡り、測量や航海術などを学んだ後、鎖国時代の日本に帰国し、日本の民主化や国際交流に多大な功績を遺しました。坂本龍馬の開眼も万次郎の体験によることは明らかで、板垣退助、中江兆民、岩崎弥太郎などにも多大な影響を与えました。



■ 足摺クルーズ

四国最南端の地として知られる足摺岬（高知県土佐清水市）。足摺岬灯台や、黒潮が日本で最初に接岸する臼渚などを、船でクルージングすることで、陸の上からは見ることのできない、迫力ある風景を体感できます。



● 万次郎足湯

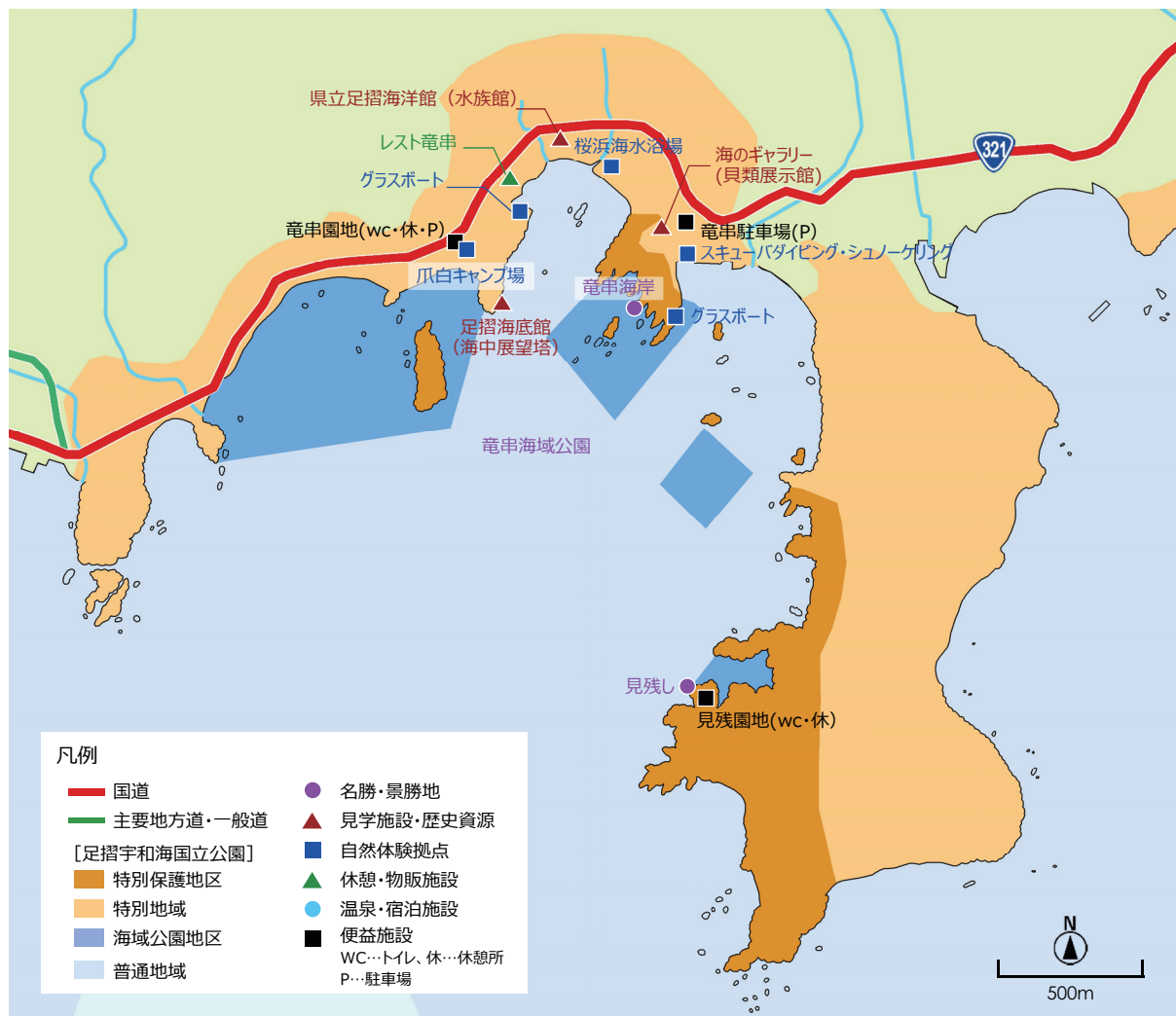
2009（平成 21）年 4 月にオープンした足摺岬白山洞門を展望できる足湯です。



● あしずり温泉郷

足摺岬からほど近い「あしずり温泉郷」は、雄大な太平洋を一望できる温泉地です。岬の岩壁にそびえ立つ温泉宿も多く、野趣あふれる温泉と絶景を見ながらの入浴が楽しめます。

土佐清水市の観光資源マップ③ 竜串地区



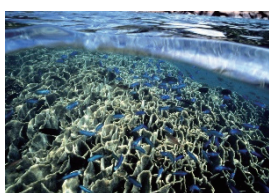
●見残し

「見残し」という地名は、昔、弘法大師がこの地を見残したことに由来していると言われています。弘法大師が見残したのもうなずける難所ですが、グラスボートで渡ることができます。遊歩道があり、人魚御殿や愛情の岩など、見逃せない迫力の風景です。竜串海岸と同じように、様々な奇岩・奇勝があります。



●竜串海岸

海のギャラリーから桜浜海水浴場へ続く、奇岩・奇勝の壮大な風景。竜串には激しい風や波の侵食作用によって「蜂の巣構造」と呼ばれる特徴的な岩肌をはじめ、大竹・小竹・らんま石・かぶと石・鯉の滝登りなどの名称で呼ばれる奇岩・奇勝が点在することから地学教材の宝庫と言われ、圧倒的な自然の造形美を堪能することができます。



●竜串海域公園

日本で最初に海中公園に指定された竜串の海中公園（現 海域公園）は、レジャーダイビングのスポットとしてビギナーから楽しめます。台風や夏場の時化以外は潜ることができるため、基本的にシーズンオフはありません。海中にはシコロサンゴの群落地があり、日本一の規模とされています。グラスボートでも美しい海中の様子を観察することができます。



▲海のギャラリー（貝類展示館）

日本でも珍しい貝類展示館。日本の三宝と称されるテラマチダカラ、オトメダカラ、ニッポンドカラをはじめとして、大きいもので 1m 以上、小さなもので 1mm 以下のものまで約 3,000 種 5 万点の貝が展示されています。



▲県立足摺海洋館（水族館）

「土佐の海と黒潮の魚たち」をテーマに、足摺半島周辺に棲む魚類を中心に、約 200 種、3000 匹を飼育展示しています。圧巻は直径 9m、高さ 6m の海洋水槽で、観る者を圧倒します。スズキやカンパチ、ロウニンアジなどの大型魚をはじめ、約 50 種の魚たちが泳ぎ回っています。



▲足摺海底館（海中展望塔）

竜串海岸の西側、海の上にずっと立つ白と赤の建物。全国に 6 つある海中展望塔の一つで、中四国では唯一の施設です。コンセプトは「普段着のままで、自然の海を散歩できる」。建物に入り、螺旋階段を降りた部屋には丸い小窓が開いていて、海中の様子を見学できます。サンゴ礁が連なるなかを色とりどりの熱帯魚が泳ぐさまは、さながら竜宮城のようです。



■スキューバダイビング・シュノーケリング

温暖な黒潮の影響を受け、イシサンゴ類をはじめとする多くの生きものが生息する竜串湾。その海中景観の美しさには定評があります。竜串地区では、プロのインストラクターによる豊富なダイビングコースが用意され、初心者から上級者まで楽しめるようになっています。また、手軽に楽しめるシュノーケリングも人気のメニューです。



■グラスボート

船底がガラス張りになった「グラスボート」（海中展望船）からは、竜串湾内の様々なサンゴやその周りを泳ぐ色鮮やかな熱帯魚の群れを見ることができます。



■桜浜海水浴場

市内唯一の海水浴場であり、昔は桜貝という小さな貝が浜を覆い隠し、浜が桜色に染まっていたことから名付けられたといわれています。現在は桜色ではありませんが、白砂の美しい砂浜は、夏場にウミガメが産卵にくることもあります。



■爪白キャンプ場（爪白園地）

竜串海域公園に隣接し、竜串・見残し、足摺海洋館や足摺海底館などにも近く、サイトには芝生が広がる気持ちのよいキャンプ場です。



▲レスト竜串

国道 321 号沿いにあり、足摺海底館の入口に位置する物産販売施設です。

1-2-1 足摺地区の観光資源

足摺地区は、270°の視界が広がり紺碧の海に突き出た「足摺岬」を筆頭に、自然が織りなすダイナミックな景観が楽しめる場所となっています。荒々しく打ち寄せる太平洋の波は、大きな岩山に長い年月をかけて穴を開けた「白山洞門」や、見事な花崗岩の断崖となった「白礫」などをつくりあげました。また、三方を海に囲まれ、街灯や民家の灯りが少ないことから四季を通して満天の星空を眺めることができ、「スターウォッチング」に最適な場所となっています。足摺半島の先端近くの海岸段丘の一角には、縄文時代早期（紀元前 5000 年頃）から弥生時代にかけての石器や土器片が数多く出土し、一帯にはストーンサークルと思しき石の配列や高さ 6～7m にも及ぶ巨石が林立する「唐人駄場遺跡」があります。さらに、足摺岬周辺には亜熱帯の植物が生い茂り、とりわけ「松尾神社」境内にある「アコウ」の大樹*は樹齢 300 年を誇り、この地区の貴重な観光資源となっています。

足摺地区には、嵯峨天皇の勅願により弘法大師が開基したといわれる、第 38 番札所「金剛福寺」があり、1 年を通して多くの遍路や参拝客が訪れます。また、金剛福寺建立の頃より足摺岬では温泉が出ていたという伝説が残り、今でも岬周辺 7 カ所の宿泊施設において「あしずり温泉郷」として観光客を迎えています。

1-2-2 竜串地区の観光資源

竜串地区は、本市市街地から約 8km 西方にあり、造礁サンゴや南方系の魚類などが生息する、1970（昭和 45）年に我が国初の海中公園地区（現 海域公園地区）に指定された場所です。

竜串海岸は、1500～2000 万年前の砂岩からなる侵食台地で奇岩の景勝地として有名で、丸みを帯びた岩がまっすぐに伸びる「大竹小竹」や「蛙の千匹連れ」、「しぼり幕」などの名所が数多くあります。また、千尋岬西側の先端近くにある海岸一帯は、竜串周辺を訪れた弘法大師がこの景勝地を見落としていったことから「見残し」の名がついたといわれている名所です。

竜串地区には、このような自然資源を活かすべく、足摺半島周辺に生息する魚類、約 200 種を飼育展示する「足摺海洋館」や、海中展望塔で海の中を見ることができる「足摺海底館」、約 3,000 種 5 万点の貝類を展示する「海のギャラリー」などの施設があります。さらにこの地区では、冬場でも海水温が 16～18℃ と高いことから、年間を通じてダイビングが楽しめるなど、体験観光が盛んな場所でもあります。

* 1921（大正 10）年に国の天然記念物に指定されている。

1-3 土佐清水市の観光の動向

本市の観光客の入込数や施設の利用状況、観光における消費額などについて、データを中心に整理します。

1-3-1 観光客の入込

本市は、海岸線のほとんどが「足摺宇和海国立公園」に指定されており、足摺・竜串地区を中心とした雄大な自然景観と豊かな自然環境を有し、優れた観光地として発展してきました。本市への観光客の入込数は、1973（昭和 48）年に約 96 万人を数えた後、1980 年代は 80 万人前後で推移していましたが、1988（昭和 63）年の瀬戸大橋開通ならびに 1992（平成 4）年の高速道本州直結を契機に増加傾向に転じ、1993（平成 5）年にはピークとなる約 104 万人が本市を訪れています。しかし、その後は微増微減を繰り返しながら徐々に減少傾向となり、近年は 70 万人前後で推移しています（図 1-1）。

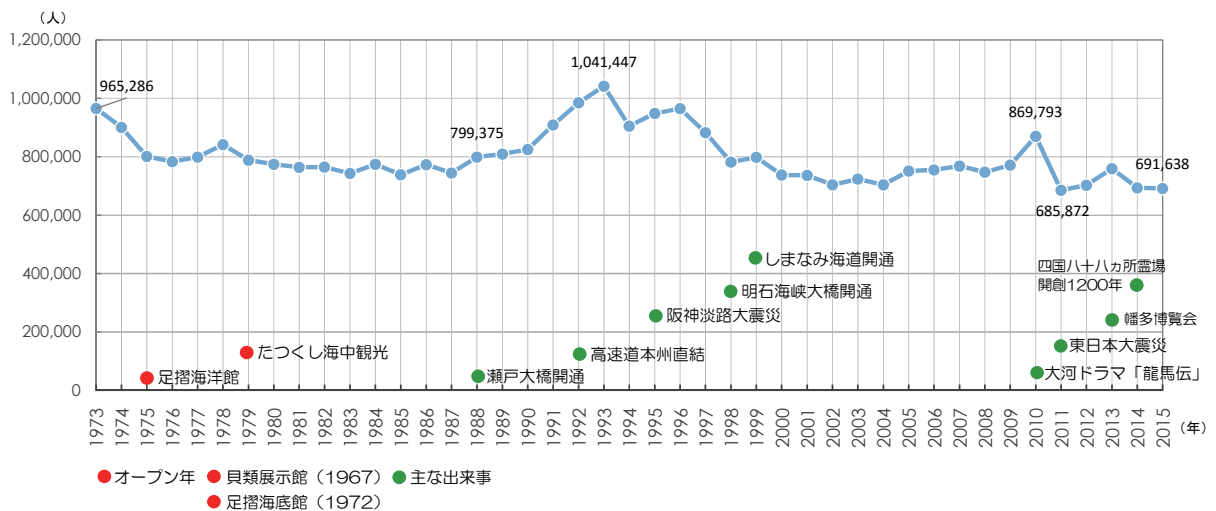


図 1-1 土佐清水市の観光客の推移

資料：土佐清水市

近年の月別の観光客入込数を見てみると（図 1-2）、観光客が多いのは夏休みの時期や暖かくなる 3 月、5 月の大型連休の時期です。とりわけ 8 月は突出して多く、例年 11～12 万人あまりの観光客が訪れ、本市が夏場に強い観光地であることを裏付けています。一方、12 月、2 月の冬場は少なくなっており、夏場のさらなる誘客と冬場の観光メニューの充実が課題であると考えられます。

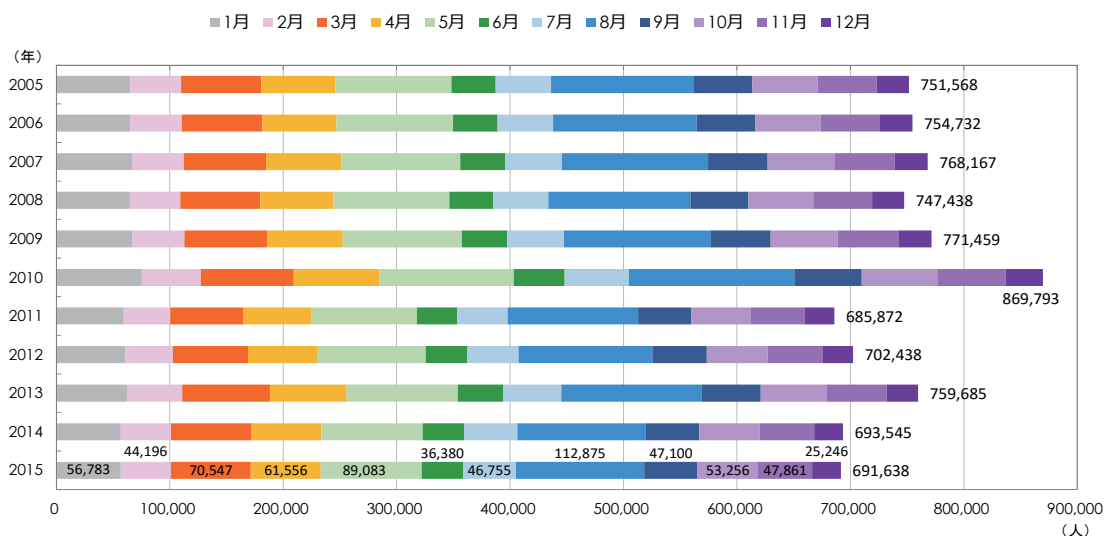


図 1-2 月別観光客の推移
資料:土佐清水市

また、近年のアジア圏における経済成長や、これを背景とした旅行市場の急速な拡大を背景に、外国人観光客の宿泊者数*については、2013（平成 25）年の 1,934 人から僅か 2 年で 4,147 人と倍以上の増加となっています（図 1-3）。外国人観光客は今後も増加すると予測され、その受入体制の拡充が欠かせない状況になっています。

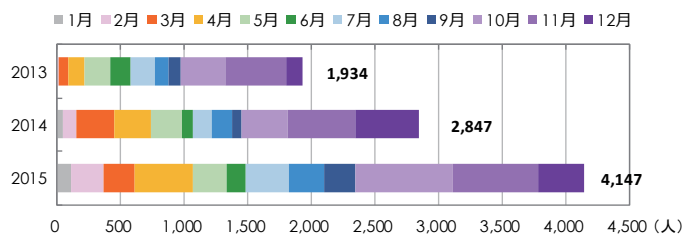


図 1-3 外国人観光客宿泊数（あしずり温泉協議会施設のみ）
資料:土佐清水市

さらに昨今、漁業体験や環境学習プログラムなど、地方における個性ある教育旅行も盛んに実施されており、本市においても以前より教育旅行の受入を積極的に行ってきました。受入校数は、1985（昭和 60）年から 2005（平成 17）年に至るまでは、増減はあるものの平均 10 校ほどの受入れがありましたが、2006（平成 18）年以降は、平均 4 校程度となっており（図 1-4）、地域間の競争が激化していることが想像されます。教育旅行は近年、民泊の形態をとる学校も増加していますが、本市においては一部地域での実施に止まっており、民泊を含めた教育旅行の受入れについての検討も重要な課題となっています。

* あしずり温泉協議会施設の宿泊者数。なお、市調べでは 2012（平成 24）年の市全体の宿泊者数は 947 人となっている。

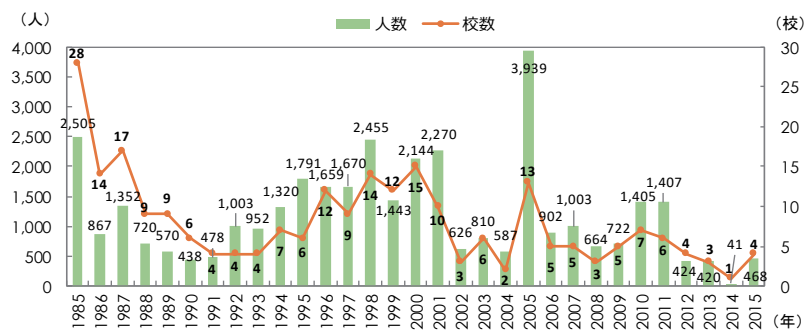


図 1-4 教育旅行客数と学校数
資料：土佐清水市

1-3-2 施設利用状況

本市の主要な観光資源である各種施設においては、1980（昭和 55）年頃から徐々に利用者数は減少しはじめ、1991（平成 3）から 1993（平成 5）年に一旦盛り返したものの、その後は一貫して右肩下がりの状況が続いています。（図 1-5）。現状、一部施設においては比較的健闘しているものの、2015（平成 27）年の施設利用者は、1978（昭和 53）年、2000（平成 12）年のそれぞれ△66.3%、△35.5%となっています。

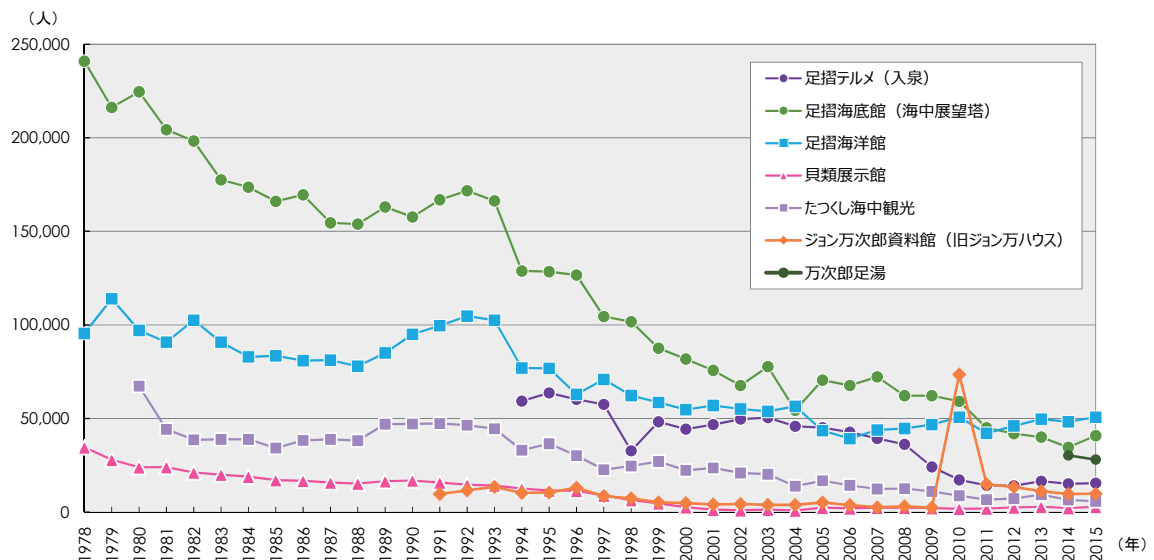


図 1-5 主要観光施設利用者数の推移
資料：土佐清水市

宿泊利用者数については、2005（平成 17）年に約 27 万人を数えましたが、2015 年には約 17 万人と約 10 万人（△35.7%）減少しており（図 1-6）、本市を訪れても宿泊は別という旅行スタイルになりつつあることが懸念されます。このことから、観光客に宿泊を促すための魅力あるメニューの拡充が課題となっています。

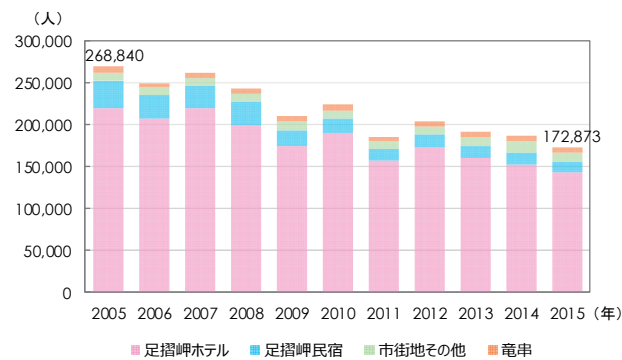


図 1-6 宿泊施設利用状況

資料: 土佐清水市

1-3-3 観光における消費状況

県外観光客一人あたりの消費額(高知県内)を示します(図 1-7)。この結果は当該旅行における消費額を示したものであり、本市で全て消費したというものではありませんが、2010(平成 22)年以降は足摺岬において調査を行っているため、本市での消費も少なからず含まれているものと判断されます。

高知県全地点*の消費額は、増減を繰り返しながらも微増傾向にあり、平均は約 2 万 4,000 円程度となっています。一方、足摺岬での調査結果では、5 カ年平均で約 3 万円となっており、明らかに多い結果となっています。費目別に見てみると(図 1-8)、県内全地点では交通費や飲食費、宿泊費が増加する傾向にあります。僅か 2 カ年のデータではあるものの、足摺岬では明らかに宿泊費と交通費が多くかかっています。

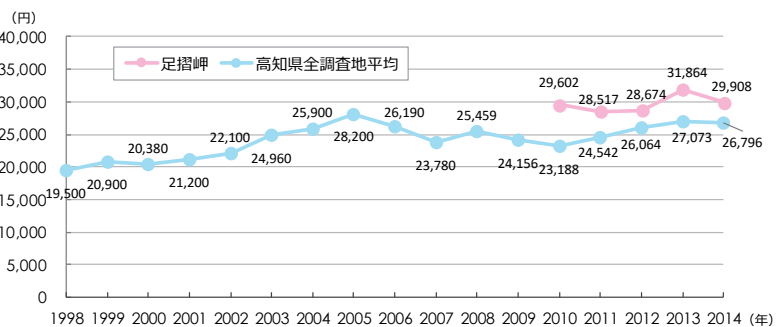


図 1-7 県外観光客一人当たりの県内消費額

資料: 高知県『県外観光客入込・動態調査報告書』

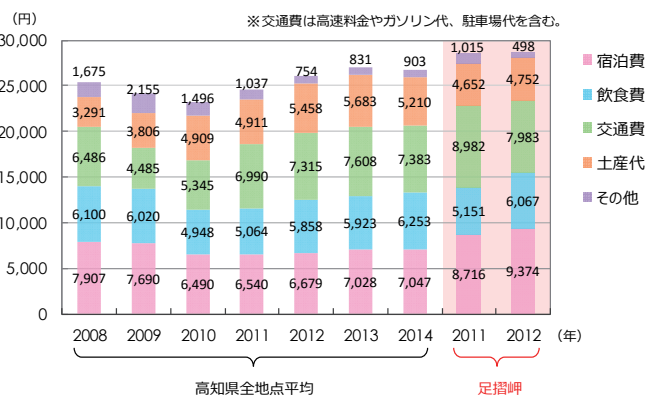


図 1-8 県外観光客一人当たりの県内費目別消費額

資料: 高知県『県外観光客入込・動態調査報告書』

* 調査地点数は、1998(平成 10)～2002(平成 14)年までは県内 3 カ所、2003(平成 15)年からは 8～10 カ所。

1-3-4 観光客の期待度と満足度

高知県が実施した県内の観光地を訪れた観光客への満足度調査の結果（図 1-9）および本市観光地の期待度と満足度調査の結果を示します*。

県内観光地の満足度については、4 項目ともに県全体と西部に大きな差異は見られませんが、「観光施設」において西部の満足度がやや高い結果になっています。また、「道の走行のしやすさ」では、西部の満足度が若干低いという結果になっています。

これらの項目は、本市の観光振興を図っていく上での重要なファクターとなります。本市への交通アクセスはこれまでも大きな課題でしたが、道路事情は徐々に改善されてきており、今後は老朽化施設への対応やサイン、トイレなどの整備も考慮していく必要があります。また、「食」に関してはここでは違いは見られなかったものの、本市においてはこれの充実が大きな課題と考えられ、積極的に取組を展開していく必要があります。

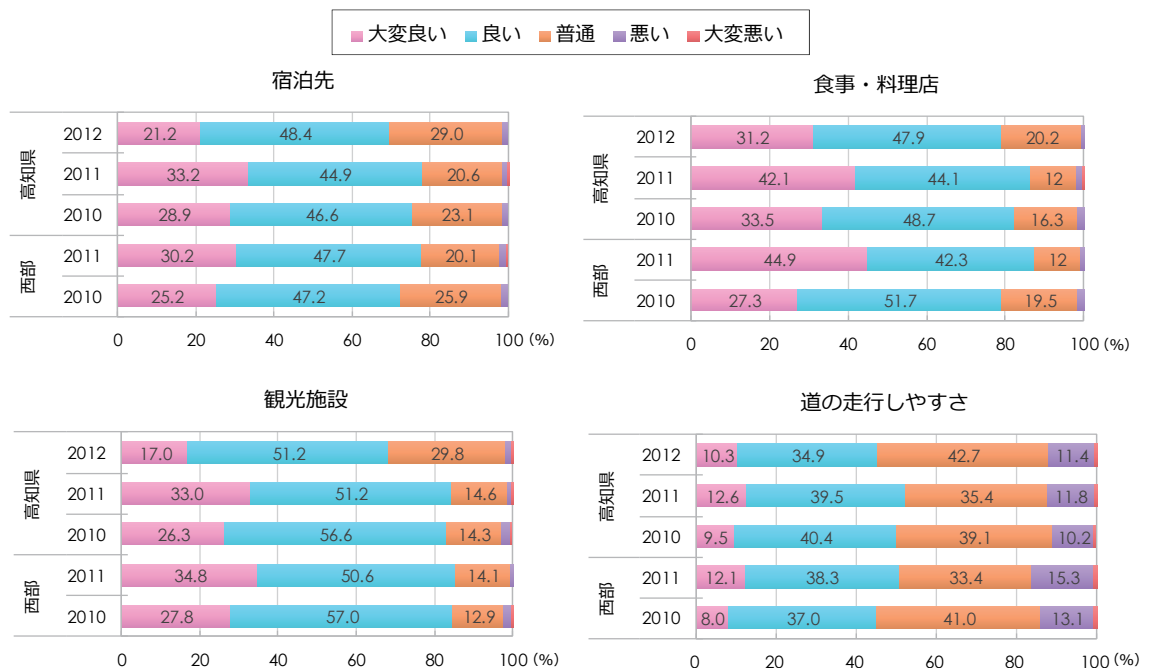


図 1-9 観光客満足度調査
資料：『県外観光客入込・動態調査報告書』（高知県）

一方、本市観光地への期待度と満足度を見てみると（図 1-10）、期待度が高かったのは、「足摺岬・足摺岬展望台」で約 60%、次いで「足摺海底館」、「竜串海岸」などであり、満足度が高かった場所もほぼ同様の結果でした。一方、期待値はそれほど高くなかったものの満足度が比較的高かった観光地としては、「サンゴのかけら浜」、「天狗の鼻」、「唐人駄場遺跡」などが挙げられています。これらの有効な活用策の検討も必須事項と考えられます。

* 「県外観光客入込・動態調査報告書」（高知県）。調査は四季別に年 4 回、各調査地とも 1 季節 50 人に対し、直接聞き取り調査を実施。西部は、梼原・維新の道社中、四万十川観光開発遊覧船乗場、足摺岬の値を抜粋。

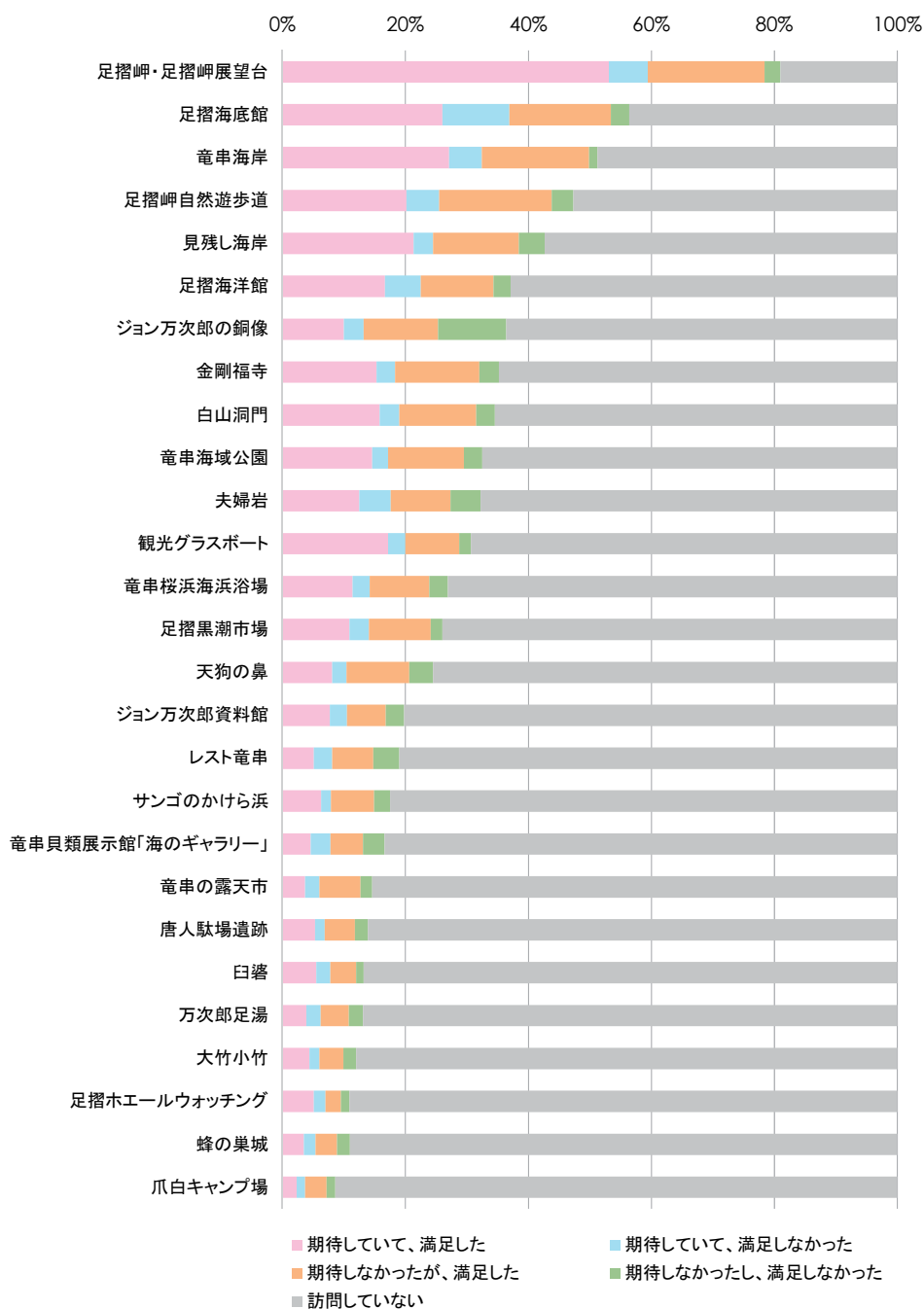


図 1-10 本市観光スポットの期待度と満足度
資料：リクルート（2010）

1-4-2 公共交通

公共交通については、大都市から高知市までは空路・鉄道・バスと手段は多様である一方、高知市から本市へのアクセスについては鉄道とバス路線に限られます（表 1-1）。鉄道は、高知－窪川間は JR、窪川－中村・宿毛間は土佐くろしお鉄道によって運行されています。バスは、高知西南交通によって運行されており、国道 321 号沿いの本市に乗り入れています。

表 1-1 公共交通機関による本市へのアクセス

起点	終点	交通手段	所用時間	経路	便数（1日片道）
東京	高知	飛行機	約1時間20分	東京（羽田）空港～高知龍馬空港	10便（JAL5便、ANA5便）
大阪	高知	飛行機	約40分	大阪（伊丹）空港～高知龍馬空港	6便（ANA）
		列車	約3時間40分	新大阪駅～岡山駅（乗換）～高知駅	新幹線＋特急14便（JR）
		高速バス	約5時間10分	・大阪駅～高知駅 ・大阪梅田～高知駅	・JR四国バス14便 ・阪急バスとさでん交通 共同運行10便
岡山	高知	列車	約2時間40分	岡山駅～高知駅	JR特急14便
		高速バス	約2時間20分	岡山駅～高知駅	JR四国バス他4社共同運行9便
高知	中村	列車	約1時間40分	高知駅～中村駅	JR特急9便
高知	土佐清水	高速バス	約3時間10分	高知駅～土佐清水市街（ブラザバル前）	高知西南交通バス1便
中村	土佐清水	路線バス	約1時間	中村駅～土佐清水市街（ブラザバル前）	高知西南交通バス7便
土佐清水	竜串	路線バス	21分	土佐清水市街（ブラザバル前）～竜串（海底館前）	高知西南交通バス6便
土佐清水	足摺岬	路線バス	足摺半島 西回り41分 東回り32分	土佐清水市街（ブラザバル前）～足摺岬	高知西南交通バス15便

注）便数については、JR は平成 28 年 3 月 26 日のダイヤ改正後の時刻表を参照した。それ以外の交通機関については、各社 HP に掲載されている最新の時刻表によった。また、平日を想定した場合の便数であり、土日祝は減便されることもある。

1-4-3 二次交通

本市において、二次交通は重要な位置づけにあり、観光の生命線ともいえます。とりわけ、約 10 年前から年間約 70 日運行している周遊バス「しまんと・あしずり号」は本市観光に大きな影響を与えうるものと考えられます。「しまんと・あしずり号」は、現状、3～5 月、7～9 月の連休および夏休みを中心に運行されています（図 1-12）。運行期間はその年ごとに

決められますが、2017年3月から2年間開催される「志国高知 幕末維新博」の期間中は、運行日数の増加が見込まれています。しかし、それ以降の運行は不透明であり、この存続に対する働きかけは本市観光にとって大きな課題であるといえます。

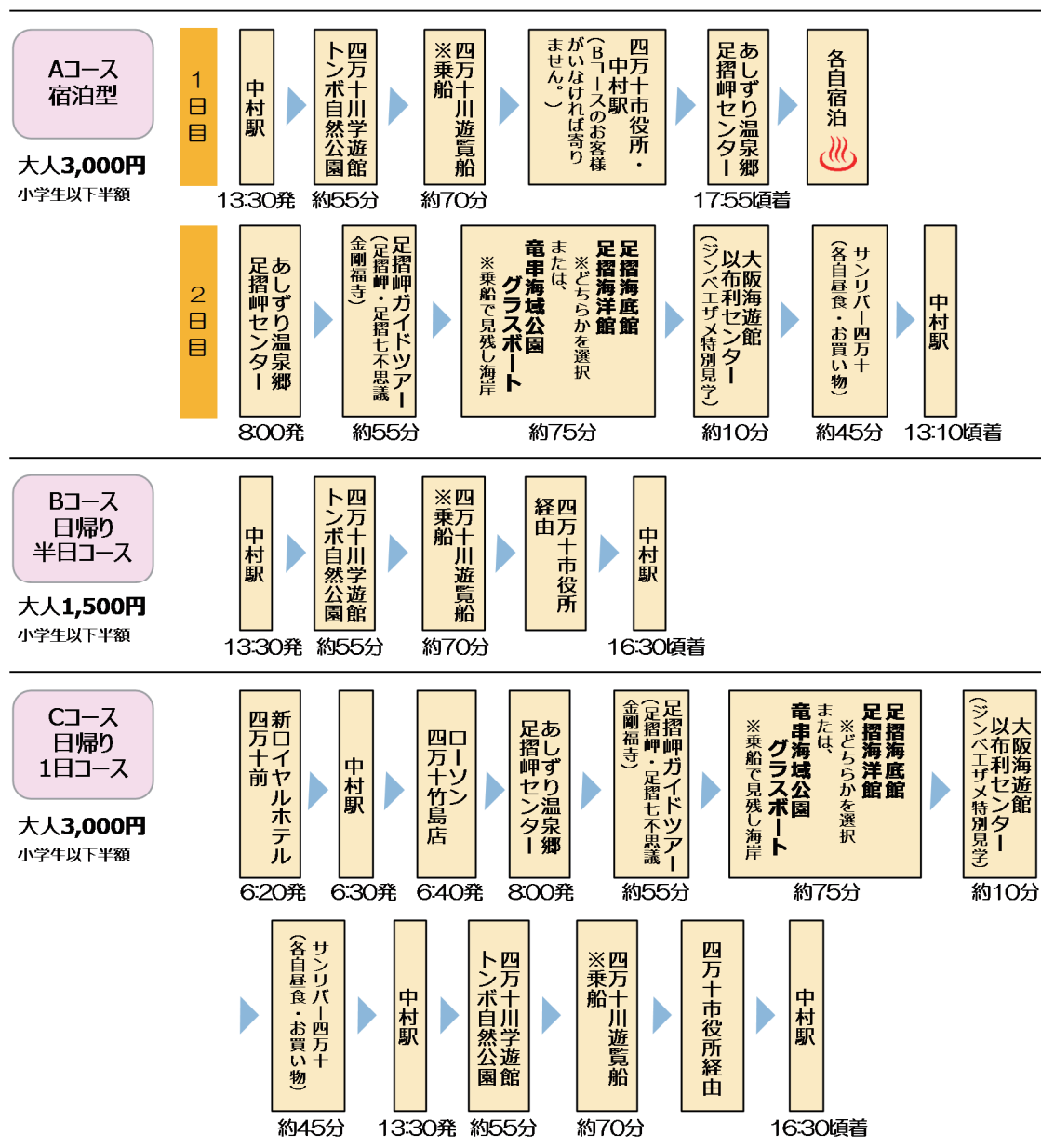


図1-12 しまんと・あしずり号運行ルート

資料：土佐清水市観光協会 HP もとに作成

注1) コース内各施設での入場料・乗船料・食事代、あしずり温泉郷の宿泊代金は含んでいない。

注2) ここで示したルートは、2016（平成28）年のものであり、2017年以降は大幅に変更されることがある。

1-5 観光に係る活動団体

観光振興を図っていくためには、本市受入側の体制構築が重要となります。現状において、観光に係る活動を行っている団体を整理します（表 1-2）。

本市には観光に係る活動として、様々な情報発信や体験等ツアー、教育旅行等の受入れを行っている団体があります。これらは来訪者それぞれのニーズに応えたメニューや体験、食などを提供するものです。ここでは 8 つの団体を挙げていますが、観光振興に対して積極的に活動している団体としては、ボランティアや NPO 等の取組によるところも大きいものと考えられます。

しかし、多くの団体では昨今、高齢化などの要因から人材不足に悩まされており、ボランティアの数も減少してきています。今後、増加する外国人観光客への対応や、より深く本市の魅力を知りたいという来訪者に対しては、専門性の高い人材の育成とともに、市民がもっと自分たちの暮らしている地域に誇りを持ち、おもてなしの心を育むような取組が大切となります。将来的にジオパークの認定を目指す本市においては、このような団体間の協力・連携を促進し、観光まちづくりを促進させる人材の確保・育成は大きな課題といえるでしょう。

表 1-2 本市における主な観光活動団体の概要

団体名	取組概要	発足年	観光に関する取組		
			情報発信	団体受入	体験・ツアー等実施
一般社団法人 土佐清水市観光協会	土佐清水市内の観光産業の振興を目的とし、イベント企画や情報発信等を行っている。	S50 H15 法人化	○	○	○
大阪海遊館 海洋生物研究所 以布利センター	大阪にある水族館「海遊館」の展示生物の収集・飼育と周辺海域の調査・研究を目的とした施設。地域振興を目的とした第 2 水槽の一般公開等を行っている。	H9	○	○	—
一般社団法人 あしずり温泉協議会	足摺で採掘された温泉を使った宿泊施設 7 軒が中心となり、観光客誘致に取組んでいる。スターウォッチングや早朝ウォークなどの体験プログラムを実施している。	H23	○	○	○
株式会社 高知県観光開発公社	竜串海域公園内の足摺海底館（海中展望塔）を運営する。	S45	○	○	—
特定非営利活動法人 NPO 竜串観光振興会	竜串地区の観光事業・環境保全・地域事業活性化に関する事業等を行う。	— H20 法人化	○	○	○
土佐清水市観光 ボランティア会	個人や小グループ・団体等を対象に、足摺岬や竜串・見残し、竜串海域公園など、市内の観光地を無料で案内している（ガイド数約 30 名）。	H11	—	○	○

団体名	取組概要	発足年	観光に関する取組		
			情報発信	団体受入	体験・ツアー等実施
土佐清水市旅館組合	土佐清水市内の宿泊施設の紹介や、観光に関する情報発信を行うとともに、市内イベント企画等へ参画し誘客促進活動を実施している。	S33	○	○	○
土佐清水商工会議所	前身の清水町商工連合会を経て、昭和29年12月20日に土佐清水市商工会を設立。新しい経済情勢に即応できる広範な活動をするためには、中央と直結する地域経済団体として商工会議所の設立が必要という商工業者の総意により、昭和32年2月11日に設立された。	S32	○	—	—

資料：各団体の HP・パンフレットおよびヒアリング結果をもとに作成

注）民間の宿泊、体験施設および飲食施設等も観光振興に重要な役割を果たすが、ここでは省略した。

1-6 土佐清水市における観光関連計画の状況

本市においては、2012（平成 24）年頃より、特に竜串地区を中心に複数の施設計画および観光関連のプロジェクトが持ち上がっています。これらの計画は本市観光に多大なる影響を与える事業となり得ます。ここでは、各計画の概要および進捗状況等について整理するとともに、広域観光の計画についても概観します。

1-6-1 新足摺海洋館

足摺海洋館は、足摺宇和海国定公園の国立公園への昇格、南国土佐への観光ブームなどを背景に策定された「海洋学園構想」の一環として高知県によって整備された水族館です。1975（昭和 50）年 5 月に開館し、その後 40 年以上にわたって「土佐の海と黒潮の魚たち」をテーマとした展示で多くの観光客を集めてきましたが、老朽化した施設の更新と耐震性能の向上のため、高知県の事業によって建て替えられることとなりました。

新しい海洋館は、眼前の竜串湾との一体感を演出した「海の水族館」をコンセプトとした 7 つの屋内ゾーン、海とつながった屋外ゾーンからなる 2 階建ての建物（建築面積：約 2,120m²・延床面積：約 3,310m²）として、現海洋館のすぐ西側に建てられます*。

事業スケジュールとして、2016～2017 年度に設計、2018～2019 年度末に新しい海洋館の建築工事が行われます。2020 年度の第一四半期に旧館からの生体の移動、旧館の解体および新館の外構工事が行われ、東京オリンピックの開催時期にあたる同年夏に開館予定です。

* 高知県（2015）。



新足摺海洋館の建設イメージ
資料：高知県提供

1-6-2 足摺宇和海国立公園ビジターセンター

足摺宇和海国立公園ビジターセンター（仮称；以下、ビジターセンター）は、足摺宇和海国立公園の足摺・竜串地域の自然情報、利用情報を広く発信し、海を中心とした自然体験利用を推進する拠点として、新足摺海洋館敷地の東側に環境省が整備する博物展示施設です。竜串湾のサンゴをはじめ、当地域の自然資源を保全・活用する「竜串自然再生事業」の活動を継続的に支援する拠点としての役割を担うとともに、施設間の連携や屋外フィールドへの誘導など、竜串地区全体の利用促進に寄与することも視野に入れています*。

建物は床面積が約 400m² の平屋建てで、複数の利用形態に対応可能な展示室、海への展望やフィールドと連携した利用を想定したウッドデッキ、屋内外からアクセス可能なトイレやシャワー室、屋外倉庫などを備えることとなっています。

2016～2017 年度に設計、2018 年に建築工事が行われ、新足摺海洋館より約 1 年早い 2019 年春頃に開館する予定です。



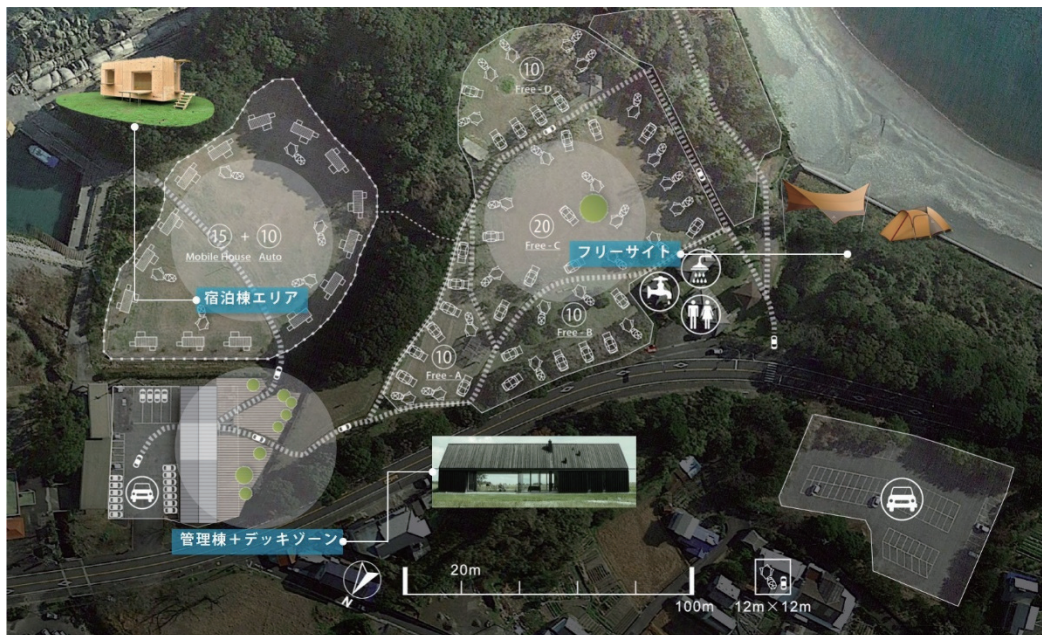
ビジターセンターのイメージ
資料：中国四国地方環境事務所

* 中国四国地方環境事務所（2016a）。

1-6-3 爪白キャンプ場

爪白キャンプ場は、竜串地区の西側に位置する芝生広場です。海と隣接したロケーションでの芝生のフリーサイトはキャンプ場として十分な訴求力が期待されることから、アウトドア総合メーカー「株式会社 スノーピーク」が計画・設計監修を行い、本市が再整備を行います。

整備計画には、コテージや管理棟の新設、トイレやシャワー棟の改修などが含まれており、2016～2017 年度に計画・設計、2018 年度に工事を行い、翌 2019 年 4 月のオープンを目指しています。



爪白キャンプ場ゾーニングイメージ

資料：土佐清水市

1-6-4 土佐清水ジオパーク構想

「ジオパーク」とは、重要な地質遺産や生態系、歴史・文化など人の営みを包括する自然の公園であり、これら地域資源の保全に努め、教育や防災、地域振興に活用することを理念とするものです。

土佐清水ジオパーク構想は、その推進によって郷土の誇りの醸成と地域の振興・活性化を目的とし、2017 年度の日本ジオパークの認定を目指しています*。2014（平成 26）年 4 月に発足した住民組織の「土佐清水ジオパーク推進準備会」と本市が協働して取組を開始し、2015（平成 27）年 2 月には「土佐清水ジオパーク推進協議会」が設立されました。2015 年度当初には本市観光商工課に「ジオパーク推進室」を設置し、住民周知や普及



土佐清水ジオパークロゴ

* 土佐清水市（2015）。

活動、各種連携等を積極的に推進しています。

土佐清水ジオパーク構想は、その範囲を土佐清水市全域とし、テーマは以下のとおり設定されています。

「黒潮あろう大地が宿す 豊かな海の記憶」

また、地質学的に貴重な場所であり、ジオパークのテーマを説明できる場所としてのジオサイトの選定基準を定め、21カ所のジオサイトを選定しています。活動計画としては、「保全と整備」、「教育・研究活動」、「ジオツーリズム」、「情報発信・地域振興」、「管理組織・運営体制の強化」を掲げて活発に取り組んでいるところです。

1-6-5 幡多広域観光振興計画

幡多広域観光は、本県幡多地域に属する「四万十市」、「土佐清水市」、「宿毛市」、「大月町」、「黒潮町」、「三原村」の6市町村が連携し、幡多広域エリアが経済的に活性化することを目指しています。幡多広域エリアを訪れる人が増え、滞在時間が増えることによって観光消費額が増えます。それによって観光に関わる新たな生業が生まれ、人口増加や地域経済の活性化につながり、地域の人々が元気になることを目的としています*1。

幡多広域が2021年に目指すべき姿として、県外観光客7万人以上、観光総消費額19億円以上と設定されています。計画では、幡多広域観光の現状についてSWOT分析*2を用いて把握し、目標達成に向けた取組として、「教育旅行」、「スポーツ客」、「一般観光客」それぞれに目標と対策、具体的な施策を講じていくことが明記されています（図1-13）。

計画の中では、本市の方向性および目標も示されており、広域的な連携促進による取組を進めていくことも重要な課題となっています。

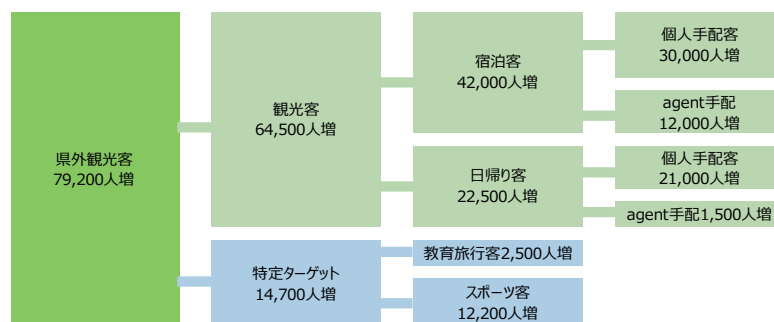


図1-13 目標設定の考え方

資料：幡多広域観光協議会（2015）をもとに作成

*1 （一社）幡多広域観光協議会（2015）。

*2 企業などの組織が目標を達成するために、強み strengths、弱み weaknesses、機会 opportunities、脅威 threats の4つの指標に基づいて自己評価を行う分析手法。

1-7 土佐清水市観光の課題

ここまでに整理した本市の観光資源の状況や各種データ、観光に関わる社会的な背景などを踏まえて、以下に土佐清水市観光の課題を導出します。ここに挙げた課題を一つひとつクリアしていくことで本市観光の道筋が開かれていくものと考えられます。

◇観光資源の保全

近年では、高齢化・過疎化が進展し、人間活動の縮小による生物多様性の危機が懸念されています。本市は、その海岸線のほとんどが足摺宇和海国立公園に指定され、雄大な自然環境をベースに有数の観光地として発展してきました。すなわち、足摺岬の絶景やツバキ、竜串の奇岩、海域公園のサンゴなど、自然の恩恵を受けたこれらの資源を将来にわたって確実に保全していくことが大切です。また、地域固有の歴史文化資源も大きな観光のコンテンツです。農林漁業や暮らしとともに培われた景観などの価値を活用していくことも重要となります。

◇宿泊利用者の減少

本市への宿泊客は、10年間で約10万人減少しています（△35.7%）。観光客入込数の減少（△8.0%）に比べてその減少率は大きく、本市を訪れても宿泊はしないというスタイルが浮き彫りとなっています。食の充実や夜間の体験メニューなどの拡充を図り、宿泊客を増やしていくことが大きな課題です。

そのため、宿泊の詳しい状況をはじめ、観光客全体の動向について、詳細な統計データを集積していくことも今後重要と考えられます。

◇効果的な情報発信

現状、多数の団体が観光に関する情報発信を行っています。しかしその発信方法はバラバラで統一感がなく、受け取る側にとってもわかりにくいのが実状といえます。「誰に」、「どんな情報を」、「どういう方法で」伝えていくかについて、効果的な情報発信の検討が必要です。

◇観光関連人材の確保

増加する外国人観光客や、地域の歴史文化、自然環境に興味を持つ個人客に対応するため、ガイドや体験メニューのインストラクターなど、専門的な人材の確保が急務です。また、観光関連産業の人材不足は深刻であることから、本市の自然や文化資源を活用した環境学習を活発化させ、将来的な人材を育成していくことも重要な課題です。

◇おもてなしの心の醸成

本市が魅力ある観光地となっていくためには、ここに暮らす市民自らが地域に対する愛着を持つことが重要です。訪れる人たちに楽しんでほしいというおもてなしの心を醸成していくため、市民がもっと自分のまちのことを知り、誇りを持てるまちづくりに取り組むことが大切です。

◇地元「食」の充実

本市の「食」は、豊かな海の産物が基本です。美味しい魚の安定的な供給と観光客に喜ばれるメニュー開発、昼食の時間帯の充実なども必要な取組となります。また、地元ならではの伝統的な「食」を見直し、発信していくことも重要です。

◇二次交通の拡充

本市への来訪の手段としては、自家用車が多くなったとはいえ、やはり二次交通の拡充は必須条件です。将来的に二次交通を確保・継続させていくための検討が求められます。また、泊食分離に係る宿泊先から市内中心街への移動手段の確立も大きな課題です。

◇地区間および施設間の連携

現状、足摺地区と竜串地区はほぼ別々の観光地として成立している状況といえます。今後は両地区が実施している観光メニューを関係者が共有し、協力し合うことが必要です。また、市街地においても「食」の充実とともに「泊食分離」といった取組への対応を強化していくことが求められます。さらに、幡多広域観光としての協力・連携も重要になってきます。

◇観光関連施設等の整備

団体や個人、外国人観光客など、あらゆる観光客に快適に本市観光を楽しんでもらうために、わかりやすいサインやきれいなトイレ、駐車場整備など、ユニバーサルデザイン*を念頭に置いた整備・改修も必要です。また、新たな施設が複数計画されている竜串地区においては、地区間をつなぐ遊歩道の整備や老朽化施設の対応策の検討なども重要な課題であるといえます。

* 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わず利用することができる施設・製品・情報の設計（デザイン）をいう。障害のある人の便利さや使いやすさという視点ではなく、障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいようにはじめから意図したデザイン。